

〈2018年度日本天文学会天文教育普及賞〉

日本天文学会日本天文遺産の発足

半田利弘

〈日本天文遺産選考委員会 前委員長・鹿児島大学天の川銀河研究センター長〉

e-mail: handa@sci.kagoshima-u.ac.jp



科学の成果は1日してならず。科学の歴史を象徴する事物を保存・継承することは重要である。しかし、日本では歴史的価値が軽視され、多くの未来へ残すべき「遺産」が廃棄や破壊の危機に直面している。この現状を改善するために、天文や暦に関連する歴史的物件について一般市民への理解を広めることを目的に、2018年度から日本天文遺産が設けられた。本稿では、その意義や日本天文遺産の創設と第1回（2019年3月認定）の選考に関する経緯を簡単に紹介する。

1. 賞の意義と創設の経緯

2015年5月の代議員総会で渡部潤一代議員から、天文学の分野で歴史的価値を持つ事物を顕彰する制度を日本天文学会に創設してはどうかという提案がなされた。歴史的背景が周知されていないために、目の前の経済的利益が優先され、保存や維持が疎かにされている例も数多く、これに歯止めをかける制度を作るという提案である。具体化について理事会が検討することとなった。

これを受けて、副会長であった私に洞口俊博、松尾厚、渡部潤一を加えた4名からなる検討ワーキンググループが作られた。洞口には国立科学博物館が実施している「未来技術遺産」の運用に関する情報を、松尾には国内の史跡に関する情報を特に期待しての要請であった。

2015年末より内容の検討を始め、国内の類似的歴史的物事に対する顕彰制度も参考に、対象を史跡に限らず建造物や物品、文献なども含めること、会員からの推薦に基づき選考委員会で候補を選び代議員総会で決定すること、選考委員会を「日本天文学会委員会等に関する細則」（以下、委員会細則）の第3条で規定したものとし、運用の

ための内規（以下、内規）を検討すること、指定を広く市民にアピールするのに利用してもらうための盾やパネルも贈ることなどをまとめた。

2016年5月には委員会細則と内規の原案を元に、理事会および代議員総会での議論を経て、9月の代議員総会で委員会細則が改正され、12月の理事会で内規¹⁾が承認された。ワーキンググループは具体的な運用について検討を続け、年に1回2～3件を選出すること、会員全体集会で贈呈式を行うことなどを提案した。また、当面は日本天文遺産の定着を優先し、世界天文遺産や国などによる文化財指定との関係は今後の検討課題とすることとした。

2. 日本天文遺産の認定と今後

2017年6月に発足した新体制の下、日本天文遺産選考委員会（以下、選考委員会）が発足した。第1期委員は半田利弘（委員長）、嘉数次人、中村士、洞口俊博、松尾厚の5名である。

その後、検討を続け翌年7月には会員からの推薦公募の様式を確定し、tennetと天文月報9月号で告知の上、日本天文学会公式ホームページにも掲載した。



図1 認定を広く周知してもらうために贈呈する盾(左)とパネル(右).

結果は、春季年会に先立ち2019年3月13日に法政大学九段校舎で開かれた記者会見において「明月記」および「会津日新館天文台跡」と発表された。授賞理由は日本天文学会のホームページに掲載されているので、ご覧いただきたい²⁾。

贈呈式は、3月16日に法政大学小金井キャンパスで開催された春季年会中の会員全体集会において行われた。柴田一成会長より、認定証に加え、希望に応じて、「明月記」の所有者である冷泉家時雨亭文庫には盾を、「会津日新館天文台跡」の所有者である会津若松市にはパネルを贈呈した。なお、盾およびパネルのデザインは国立天文台の石川直美氏に委嘱し、2018年10月末には確定している(図1)。

第1回で会員から受けた推薦は、代議員総会の決めで保留となった1件も含め、今後も選考委員会の検討対象とすることになっているが、漏れているものも多数あると思われる。世界天文遺産³⁾には1957年に建設されたジョドレルバンク天文台*¹なども含まれており、古い物だけが「遺産」

とは限らない。国の重要文化財にも大正以降の物件がある。年代を問わず、天文学や暦学の観点から歴史的価値があるかどうかについて主体的な判断を示し、未来へ向けての保存を促すことが、日本天文遺産を設けた趣旨である。このような観点からも、皆様からの多数の推薦を期待している。

参考文献

- 1) 日本天文学会日本天文遺産内規
<http://www.asj.or.jp/asj/articles.html#isan>
- 2) 2018年度日本天文遺産認定理由
<http://www.asj.or.jp/news/heritage2018.pdf>
- 3) 世界天文遺産の公式ページ(英文)
<https://www3.astronomicalheritage.net/>

Japan Astronomical Heritage; historical items certified by ASJ

Toshihiro HANDA

Ex-chair of the Nomination Committee for Japan Astronomical Heritage/Amanogawa Galaxy Research Center, Kagoshima University

Abstract: Science was not built in a day. To understand it we should keep the heritage and pass to the future. But many Japanese people do not understand their value, and many historical items are faced to demolition. To improve the situation Astronomical Society of Japan has started "Japan Astronomical Heritage." Here, we briefly show the system and the history of the 1st heritages.

*¹ ジョドレルバンク天文台は現在、世界遺産にも認定されている。